

14、南無阿弥陀仏

弥陀の名号、尊号、嘉号は南無阿弥陀仏、善導釈して曰く「南無と云うは歸命亦是  
発願廻向の義なり、阿弥陀仏と云うは即是其行なり、斯の義を以ての故に必ず往生す  
る事を得と言えり」と教えてあるが、南無とはたのむ機の方であり、阿弥陀仏と云うは  
助くる法の方であり、たのむ機の方までも十劫の昔六字の中に成就してあるから法体  
成就の機法一体と云うのであるが、衆生貪瞋煩惱中に徹底した時でなければ信念冥

合ごうの機法きほう一体いつたいが成なり立たたない。善導ぜんどう大師だいしの六字じつじやく积くは古今ここん楷定かいじようの名积みょうじやくであつて大信だいしん海化かいけ現げんの御方おかたでなければこの名积みょうじやくは出来できない。

当とう時じ有ゆう名めいな天台てんだい、淨影じようよう、嘉祥かじよう等なとの諸しよたいし大師だいしは競きそうて講こう积じやくを試こころみていた觀無量かんむりようじゆき寿經じゆきの講席こうせきに、名なもない一寒いっかんの貧僧ひんそうたる善導ぜんどうが連つらなつて聽講ちようこうしていたのだ。

会々たまたま下三品げさんぽんの講義こうぎになつた時とき、この下三品げさんぽんの人間にんげんは無善造惡むぜんぞうあくで業ごうに攻せめられ、苦逼くひつ失しつ念ねんで苦くに追立おいたてられているのだ。念仏ねんぶつは称とえていられるけれども因縁いんねんを結むすぶだけであつて

何時いつの世よにかは往生おうじようを得うるので即得そくとく往生おうじようをしたのでない。遠生おんじようの結縁けつえんと成なるだけで次じ生しように往生おうじよう即成そくじよう仏ぶつを得うるのではない、別時べつじ意いである。

と講积こうじやくをした時とき、一寸ちよつと質問しつもんさして頂いたきますと立たち上あがつた善導ぜんどうが、大体だいたい、觀無量かんむりようじゆ寿經じゆきは心しん想そうるい劣れつの章提いだいが対機たいきではありませんか、定散じようさん二善ぜんに堪たえない機きを救すくうのが阿あ弥陀みだ仏ぶつの目的もくてきではありませんか、第九だいの真身しんしん觀かんの仏ぶつは光明こうみゆう遍照へんじよう十方ぼうせ世界さいかい念仏ねんぶつ衆生じゆじよう攝せつ取不捨しゆふしやと申もうされたのは、下根下劣げこんげれつの下三品げさんぽんを念仏ねんぶつによつて救濟きゆうさいするのが目的もくてきではありませんか。

いやあの光明こうみやうあまね 遍ほうく十方を照てらして念仏ねんぶつの衆生しゅじょうを撰取せつしゅして捨てずと仰おほせられたのは仏ぶつを念ねんずる衆生しゅじょうだから、観念かんねんの出来できる衆生しゅじょうを撰取せつしゅすると仰おほせられたのだ。

でも散乱粗動さんらんそどうの善導ぜんどう、苦逼失念くひつしつねんの下三品げほんがどうして観念かんねんができませんように。仏ぶつの慈悲じひは苦くなる者ものにおいてす、岩上がんじょうの者ものよりは溺おぼれている者ものから救すくわなければなりません、だから付属ふぞくの文もんに來くれば廢觀立稱はいかんりつしやうして有あるではありませんか。

而しかしいくら善導ぜんどうが何なんと仰おほせられても 物事ものごとは願行具足がんぎょうくそくしなければ成就じやうじゆするものではない。下三品げほんの人は往生おうじやうしたい、参まいりたいと言いう願ねがいは有あつても 苦くに攻せめられて行ぎやうは出来できないのだから 唯願無行ゆいがんむぎやうだから往生おうじやうは出来できないのだ。

それなら願がんと行ぎやうとが具足ぐそくしていたら往生おうじやうが出来できますか。勿論もちろんできます。

それなら申もうし上げあしましょう、南無なむと言いうは歸命きみやう、亦是またこれほつがんえこう發願廻向はつがんえこうの義ぎであり、阿彌陀佛あみだぶつと言いうは即すなわちこれそのぎやう是其行にやらいすで、如來にやらいすで既に發願ほつがんして信順無疑しんじゆんむぎ、仰おほせに順したがうたと同時どうじに其人そのひとの行ぎやうとなる。願がんと行ぎやうとが六字じくじの中に調なかえてあるから必ず往生おうじやうする事ことを得うるではないか。願行具足がんぎょうくそくと言いつて 凡夫ぼんぶが願がんを起おこし 凡夫ぼんぶが行ぎやうを修しゆして行くのいなら凡夫ぼんぶの願行がんぎやうだか

ら凡夫の世界にしか行かれない。仏の願行を機無円成するが故に 仏の世界に行か  
るのではないかと理路整然として弁明された時、天台、淨影、嘉祥等顔色なく一言も  
反駁する事が出来ない。多数の聴者声を揃えて善導を讃う。今迄の説では善導は、今  
や淨土教が滅せんとしているから胎内を借りて来ては間に合わない 極楽界中から灌  
壺の側に忽然と出現された。その為に分分金色の姿をしていらるとか言っていても  
昔の人は信じたか知らないが、今の者は信じない。淨土教が潰れかけている、早く善導  
行かねば間に合わないと言うような手廻の悪い先の判らぬ仏様で役に立つものかい。  
半金色のお姿と言うのは 人生の半分、即ち半世が田舎の土に埋もれていた貧僧が、当  
時雷名を轟かしていた方々を一撃のもとに説破して仏の正意を明らかにされたから  
光明輝くお姿に拝めたのだ。

南無とは歸命、歸命とは勅命に信順する、仰せに順う、任せる、頼む、字の講釈や  
話は直に判るが、実地の腹が承知しないのだ。人々よ 東より西に向つて進んでいるの  
だ。東より太陽が上り西に没するから 生まれた者が死ぬると言う事を意味しているの

だ。(後に善導様の信機信法の下で詳説する) 真宗では始めから助かつている話ばかり  
聞いているから 観念の遊戯に終つて実地の体験がないのだ。自己を反省して見よ、忽  
ちに見る大河あり、今迄気が付かなかつたが 右を見れば渦巻く怒涛、左を見れば燃え  
立つ焰、中間に白道、欲と怒りに狂わされて三定死の立場に立つた時、「我能く汝を護  
らん」の声なき声に驚かされて、いい親であつたなあ、南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏と  
仰せに従うて泣くばかり、これを南無と言うのだ。

阿弥陀仏とは 光明無量と寿命無量、光明とは一切を照らす智慧、寿命とは一切を  
生かす慈悲、我等は一寸先の判らぬ無明の闇、一分先も知らぬ無常の命、愚痴無知の為  
に業流転を続けるのを哀れに思召して救わんと誓を立て永劫の修行を成就して正覺を  
成じ給う姿が阿弥陀仏である。

仏とは自覺他窮満の相である。我等凡夫は真理を見失ひ常樂我淨の執着に狂わさ  
れている為に流転を続けているのだから、智慧と慈悲との真理を諦得したから、衆生  
を悟らしめ、自分と衆生とが一つに成ろうとなさるのが仏である。そんなお慈悲の方

とは知らなんだ、お任せ申します、が、南無阿弥陀仏と称える意味である。